

# 再生資源利用等の進んだ自動車のインセンティブ制度 (仮称)の検討状況について

環境省  
経済産業省

# 自動車リサイクル制度の評価・検討

- 自動車リサイクル法の施行10年に伴い、平成26年8月から産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルワーキンググループ及び中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会自動車リサイクル専門委員会合同会議において、自動車リサイクル制度の評価・検討が行われ、平成27年9月には、「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」（以下、「合同会議報告書」とする。）が取りまとめられた。
- 合同会議報告書においては、自動車リサイクル制度について、法施行から10年を経てもなお、概ね順調に機能しているとしつつ、法制定当初の目的であった不法投棄等の未然防止・ASR等の最終処分量の極小化が概ね図られている現状を踏まえ、自動車リサイクル制度の「あるべき姿」を実現するため、自動車リサイクル制度が進化していくことが期待されているとし、「自動車における3Rの推進・質の向上」「より安定的・かつ効率的な自動車リサイクル制度への発展」「自動車リサイクルの変化への対応と国際展開」に更に力を入れて取組を進めるべきとされた。

## <合同会議報告書提言（抜粋）>

### ○自動車における3Rの推進・質の向上

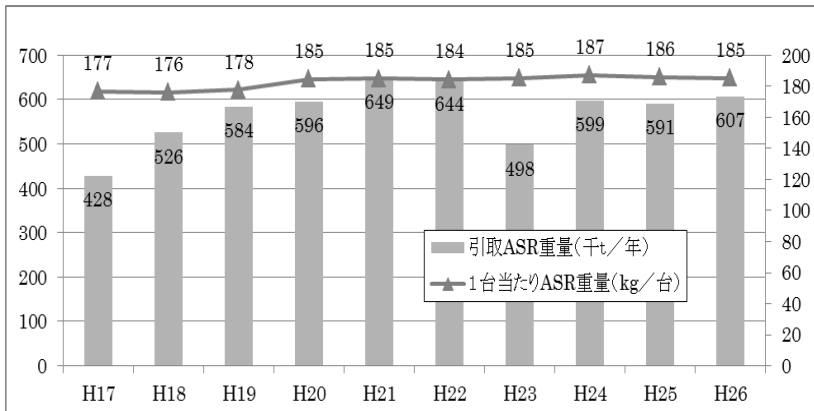
2Rがより進む社会経済システムの構築や循環資源の高度利用と資源確保が社会的に求められており、自動車リサイクルに関して、今後は3品目だけではなく、自動車全体で3Rを推進し、また質を向上していく観点で評価・取組を進めて行くことが重要であることから、自動車製造業者等における環境配慮設計や再生資源利用、解体業者による部品リユースの取組、関係事業者の連携による自動車リサイクルの最適化といった取組を積極的に推進する。（P. 26）

➤…ユーザーによる環境配慮設計や再生資源利用の進んだ自動車の積極的な選択を促すような情報発信を行うとともに、特預金等の活用によるユーザーへのインセンティブ等のあり方について検討を行うべきである。（P. 29）

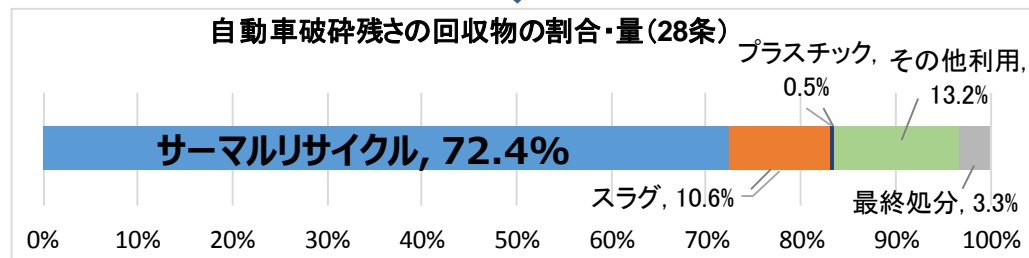
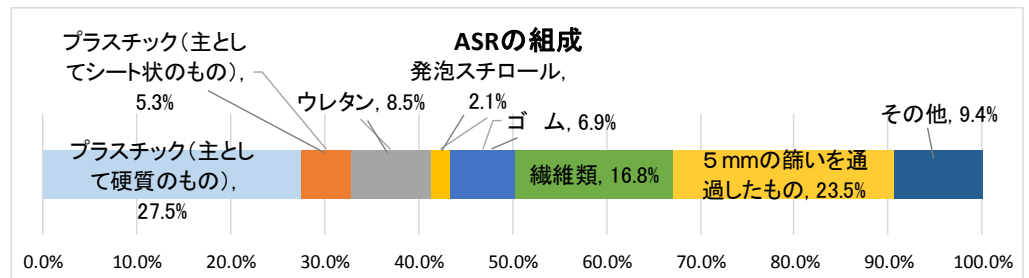
# 自動車における3R高度化についての課題

- 3Rの高度化に向けては、環境配慮設計の推進や再生資源の活用拡大に係る取組の実施が重要。
- 環境配慮設計の推進に向けては、易解体性等のリサイクル性能の高い自動車が求められるが、現状ではそのような性能がユーザーの選択に結びついておらず、普及が進まない状況にある。
- 再生資源の活用拡大に向けては、ASRの削減が期待されている中で、近年のASR発生量は横ばいのまま推移している。
- ASRについては、サーマルリサイクルの実施が進んでいる一方で、再生資源活用の観点ではポテンシャルが存在する。

＜1台あたりのASR発生重量の推移＞



＜ASRの組成とリサイクルの状況＞



# 制度の目的・波及効果

## <制度の目的>

- 「環境配慮設計及び再生資源利用の進んだ自動車」にインセンティブを与え、ユーザー選択を促すことで、自動車における3Rの高度化を推進する。

## <制度の波及効果>

